

情報社会における「自然」についての考察 ——ミシェル・セール「ノワーズ」概念を中心に

岩瀬 祥瑚（明治大学大学院）

本発表は、フランスの哲学者ミシェル・セールの思想に基づき、VRChat 等のソーシャル VR や将棋棋士による AI を用いた研究方法を事例として取り上げつつ、現代における「自然」概念を考察することを目的としている。

セール思想の重要概念の一つに「ノワーズ (Noise)」がある。「ノワーズ」は多様性そのものを示しつつも多様性を隠しているもの＝自然として描かれる。また、『自然契約』においてセールは、人間は人間同士での対立に注力するあまり、「ノワーズ」そのものとしての自然を忘れていたため、新たな契約関係を自然と結ばなければならないという。自然と向き合う際の人間の役割は、人やモノの関係を可視化することである。セールは「ひも」が人間を人間たらしめた原初の道具であるとみなすが、それは、結び付ける機能とばらばらの状態に戻す機能を併せ持つものだ。このように人間は、モノ同士の流動的な関係を可視化すると同時に自分の能力を外在化させることで発展してきた。無秩序な自然との契約において人間が果たす役割はここにある。

ソーシャル VR では、例えば女性型アバターを用いた異性愛者の男性同士が恋人関係になり、現実世界でも、その関係性を引き継いで恋人関係になったという事例がある。「異性愛者」のような概念は社会的に構成されたものであるが、こうした事例は「自然な＝ノワーズな」人間を、秩序だった従来の枠組みに抑え込むことはできないことの証明でもある。また、人間が生み出した文化においても、従来の人間の認識を越える世界が生みだされている。例えば将棋棋士のあいだでは、AI を用いた研究が盛んにおこなわれているが、AI は「結論＝最善手」だけを示し、その「理由」は明示しないため、「理由」を「可視化」することが、棋士の研究における大きな課題の一つになっている。現代社会の情報環境は、AI 等の非人間も含んださまざまなアクターの関係性が可視化され、情報や知識が共有され、常に新たな「自然」が現れる場でもある。現代情報技術が明らかにした世界は自然／人間（社会、文化）の二項対立で語り切れないものであり、セールの描いた自然と人間との関係が明確に現れている場でもあるのだ。

主要参考文献

Serres, M., *Le contrat naturel*, François Bourin, 1990.

Serres, M., *Genèse*, 1982. (及川馥訳『生成』法政大学出版局、1983)

清水高志『ミシェル・セール——普遍学からアクター・ネットワークまで』白水社、(2013)
バーチャル美少女ねむ『メタバース進化論——仮想現実の荒野に芽吹く「解放」と「創造」の新世界』技術評論社、(2022)